

ISO/TC 8/SC 2(海洋環境保護分科委員会)担当分

議長:高橋千織氏((国研)海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所)、幹事国:米国(ANSI)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC 2	ISO/CD 6319	Ships and marine technology — Marine environment protection — Performing and documenting in-water cleaning of ships' biofouling	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－船体付着生物の水中洗浄の性能及び文書化	<p>本規格案は、船体汚損が拡大する前に実施するタイプの船体洗浄(プロアクティブな船体洗浄)の標準的手法を取り纏めることを目的として提案されたが、2023年11月13日～17日に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 13ストックホルム会議の結果、リアクティブな船体洗浄も含めた、あらゆる船体洗浄を網羅した包括的な規格にすべきであると参加者から強い希望があり、タイトルと適用範囲を以下の通り変更することが合意された。</p> <p>○修正されたタイトル:「船体付着生物の水中洗浄の性能及び文書化(Performing and documenting in-water cleaning of ships' biofouling)」</p> <p>○修正された適用範囲:安全に、効率的に且つ環境に配慮した水中洗浄の計画及び実施に関するベストプラクティスを規定する。また、水中洗浄の効果に関するレポートングについても規定する。水没した表面部分、つまり船体及びニッチエリアへの全ての形式の水中洗浄(捕捉する場合、しない場合の双方)、全ての種類の付着生物、すなわちバイオフィルム、マイクロファウリング及びマクロファウリングについて記載する。内部の配管については記載しない。この規格は、港湾関係者、行政機関、付着生物への船体洗浄サービスプロバイダ、検査サービスプロバイダ、船体洗浄関係設備の製造社、塗料製造社、船主、船舶管理会社、船舶運航会社及び他の関係ステークホルダーへの情報提供となる。【ノルウェー主導】</p> <p>現在、以下5件のグループに分かれ、WD作成の審議を行った。</p> <p>1. Fundamental preparations (座長: Viktor Avlonitis(デンマーク))、2. Pre-cleaning planning activities (座長: Petter Korslund(ノルウェー))、3. Inspection prior to cleaning (座長: Karl Lander(米国)(暫定))、4. Cleaning operations (座長: Mark Riggio(米国))、5. Post-cleaning reporting (座長: Karl Lander(米国))</p> <p>現在、2024年7月17日を回答期限とした、CD照会中。</p>	CD照会中 2024.05.22～ 2024.07.17	—
SC 2	ISO 13073-1:2012	Ships and marine technology - Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 1: Marine environmental risk assessment method of biocidally active substances used for anti-fouling systems on ships	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第1部:船舶の防汚方法に用いる殺生物性活性物質の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される防汚システムで意図的に使われている殺生物性活性物質による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2012.08.01.	JIS F 0600-1 (IDT)
SC 2	ISO 13073-2:2013	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 2: Marine environmental risk assessment method for anti-fouling systems on ships using biocidally active substances	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第2部:殺生物性活性物質を用いた船舶の防汚方法の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される殺生物性活性物質を含む防汚システム(防汚塗料等)による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2013.06.01.	JIS F 0600-2 (IDT)
SC 2	ISO 13073-3:2016	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 3: Human Health risk assessment for the application and removal of anti-fouling systems	船舶及び海洋技術－船舶の防汚方法に関するリスク評価－第3部:殺生物性活性物質が用いられた船舶の防汚方法の塗装及び除去作業における人健康リスク評価法	船舶の防汚塗料に用いられる殺生物性活性物質によって、塗装作業者が被ばくするリスクがある場合で、同物質を含む塗料製品を用いることができると判断するためのリスク評価法について取り纏めたもの。 専門家あるいはアマチュアの労働者へ与える影響の測定にこのリスク評価を用いることができる。 ただし、危険及び毒性の評価のための特定の試験方法はこの規格では定めておらず、物質の使用制限等の推奨もしていない。【日本主導】	2016.06.01	—
SC 2	ISO 13617:2001	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取り纏めたもの。	2001.11	JIS F 7011:1998 (NEQ)

SC 2 (SC 3から移管)	ISO 13617:2019	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条約附属書II又はIIIにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取りまとめたもの。 改正作業に着手。SC3(配管及び機械分科委員会)から移管。 2019年7月8日を投票期限としたFDIS投票は全面賛成で可決され、同年8月に本規格は改訂された。	2019.08	—
SC 2	ISO 16165:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Terminology relating to oil spill response	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油流出への対応に関する用語	油流出とその管理に関する用語および定義を取り纏めたもの。 ISO/TC8/SC2/WG3(油流出対応作業委員会)ハンブルク会議(2019年3月)にて、参考文献を修正する必要性が指摘された。この指摘を受け、ISO/TC 8/SC 2京都総会(2019年5月)にて、小改訂のためのFDIS投票を実施するための決議が採択された。 2020年3月2日を投票期限としたFDIS投票では、小改訂に関して大多数が賛成したため、2020年4月に改訂版が発行された。	2020.04	—
SC 2	ISO/AWI 16165	Ships and marine technology — Marine environment protection — Vocabulary relating to oil spill response	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油流出への対応に関する用語	従来の重油のみでなく近年に導入されている代替燃料を視野に入れた改訂を行う提案が2024年3月に為され、韓国をプロジェクト・リーダーとして改訂作業が行われることとなった。	2024.04.20 改訂作業の着手を承認	—
SC 2	ISO 16304:2018	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－港湾廃棄物受入施設の配置及び管理	MARPOL条約により規制を受ける船内発生廃棄物であって港湾・ターミナルに陸揚げされるものの管理について取り纏めたもので、港湾廃棄物管理計画(PWMP)作成、同計画の実施及び港湾受入施設の運用においての際に考慮すべき原則や問題についても記述している。 2013年1月1日に発効したMARPOL条約改正附属書VIに準拠した形で改訂を行った。	2018.08.29.	—
SC 2	ISO/AWI 16304	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－港湾廃棄物受入施設の配置及び管理	EGCS(排ガス洗浄装置)やバラスト水処理装置を起因とした廃棄物(生物の死骸等)も対象とした改訂を行う提案が2024年3月に為され、日本をプロジェクト・リーダーとして改訂作業が行われることとなった。	2024.03.30 改訂作業の着手を承認	—
SC 2	ISO 16446:2013	Ships and marine technology -- Marine environmental protection -- Adaptor for joining dissimilar boom connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－異種のコネクターを備え付けたブームを連結するためのアダプター	標準的アダプターを介して種類の異なるコネクターを備えた流出油封じ込め用ブームの統一的な結合方法について取り纏めたもの。	2013.04.01.	—
SC 2	ISO 17325-1:2014	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Oil booms -- Part 1: Design requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第1部:設計要件	オイルフェンスの基本設計、一般的な機能、表示方法を取りまとめたもの。この規格はユーザーによる製造業者選択に役立つことを目的としており、製造業者が提供すべきオイルフェンスの材料、設計及び性能の最小限の要件を記載している。ただし、安全関係への取り組み及びオイルフェンスの操作手順は定めていない。	2014.04.18 定期見直し 投票終了 2019.09.02 確認 (現状維持)	—
SC 2	ISO 17325-2:2014	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 2: Strength and performance requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第2部:強度及び性能に関する要求事項	ISO17325-1に加え、オイルブームの強度及び性能要件並びに関連する試験方法を取り纏めたもの。オイルブームの使用における安全要件については記載されていない。 2020年3月2日×切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し 投票終了 2020.03.03 確認 (現状維持)	—
SC 2	ISO 17325-3:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 3: End connectors	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第3部:エンドコネクター	水上における油の流出を防止するためのオイルブームの連結に関する最低限の基準を取り纏めたもの。なお、配置に関する制限は設けない。	2018.09.25	—

SC 2	ISO 17325-4:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 4: Auxiliary Equipments	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第4部：周辺器具	オイルブームの設置に必要な周辺機器の設計、配置及び適用について取り纏めたもの。	2018.09.18	—
SC 2	ISO/AWI 17325-4	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 4: Auxiliary Equipment	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－オイルブーム－第4部：周辺器具	略語や曳航策の取扱いに関する文言の見直しを主眼とした改訂を行う提案が2024年3月に為され、韓国をプロジェクト・リーダーとして改訂作業が行われることとなった。	2024.03.30 改訂作業の着手を承認	—
SC 2	ISO 18309:2014	Ships and marine technology -- Incinerator sizing and selection -- Guidelines	船舶及び海洋技術－船内焼却炉の寸法及び選定－指針	ISO13617の関連文書として、船内焼却炉購入の選定を助ける選定基準を取り纏めたもの。化学物質、産業廃棄物などを焼却する特別焼却船における焼却システムには適用されない。 2020年3月2日×切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し投票終了 2020.03.03 確認(現状維持)	—
SC 2	ISO 18611-1:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 1: Quality requirements	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第1部：品質に関する要求事項	エンジン排ガス処理のためのSCRに使用するNOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性について取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、スウェーデンのみ、改訂・追補の回答。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC 2	ISO 18611-2:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 2: Test methods	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第2部：試験方法	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性の決定に必要な試験方法について取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC 2	ISO 18611-3:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 3: Handling, transportation and storage	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第3部：取扱い、輸送及び保管	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の取扱い、輸送及び貯蔵を最適に実施するための要求事項及び推奨事項を取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC 2	ISO 19030-1:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 1: General principles	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第1部：一般要件	船体及びプロペラ性能の変化の測定に関する一般事項を取り纏めるもの。 本規格の目的を達成するに当たり、次の事項を規定する。 －船体及びプロペラ(水中における)性能の定義 －船体推進効率と船体への総抵抗の関連性 －船体及びプロペラ性能の変化測定時における適切な測定パラメータ －データ取得手順 －測定の不確かさの主な要因	2016.11.15	—
SC 2	ISO 19030-2:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 2: Default method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第2部：標準手法	船体及びプロペラ効率の経時変化測定並びに基本性能指標を用いた計算の標準手法について取りまとめたもの。	2016.11.15	—
SC 2	ISO 19030-3:2016	Ships and marine technology -- Measurement of changes in hull and propeller performance -- Part 3: Alternative method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第3部：代替手法	ISO19030-2で取りまとめた手法を実践できない場合の代替手法について取り纏めたもの。	2016.11.15	—
SC 2	ISO 20053:2017	Ships and marine technology - Marine environment protection - Guidance on design and selection of sorbents	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油吸着材の設計及び選定指針	水上で用いられる油吸着材の基本設計、一般的な機能等について取り纏めたもの。また、製造者から供給される油吸着材の選定基準、材料、設計及び性能についての最低要件を取り纏めている。	2017.07	—

SC 2	ISO 20083-2:2019	Ships and marine technology -- Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 2: Optical reflection method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第2部：光反射式軸馬力計	光源、反射版及びフォトセンサー等で構成される光学式軸馬力計の技術要件及び校正手順を取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC 2	ISO 20083-3:2019	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 3: Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 3: Elastic strip vibration method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第3部：振動膜式軸馬力計	振動膜式軸馬力計の一般要件及び機器の構成並びに計測精度を決定する要素について取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC 2	ISO/DIS 20679	Ships and marine technology — Marine environment protection — Testing ship biofouling in-water cleaning systems	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－船舶の生物付着試験に関するガイドライン 水中洗浄システム	プロアクティブ・リアクティブの両方を含めた、船体表面の水中洗浄システムの性能試験・手順を定めることを目的としている。【米国主導】 本規格案は、付着生物の除去及び防止の定量化、水中洗浄実施前後の、水質環境の変化の定量化、船体洗浄が防汚塗装に及ぼす影響の定量化に関する試験を規定しているが、2023年11月13日～17日に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 13ストックホルム会議の結果、試験内容が過剰であり実行性を疑う意見があり、それらの試験項目については、参考附属書に移項することとし、WGはこれに合意した。 現在、9月17日を投票期限としたDIS投票を実施中。	DIS投票実施中 2024.06.25～ 2024.09.17	—
SC 2	ISO/AWI 21070	Ships and marine technology — Marine environment protection — Management and handling of shipboard garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い	2022年10月～2023年3月に実施された定期見直し投票の結果、ISO 21070:2017が引用しているMEPC決議文書を最新版に更新すべきとの意見が提出された。このため、日本をプロジェクト・リーダーとして、改訂作業が行われることとなった。【日本主導】	WD作成中	—
SC 2	ISO 21070:2017	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Management and handling of shipboard garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い	船上ごみの取り扱い、収集、分別、表示、処理および貯蔵などに関する手順をとりまとめたもの。船陸間のインターフェースおよび船から陸側の受け取り施設への運搬についても記載されている。本規格案のごみの定義はMARPOL Annex Vと同様である。	2017.1	—
SC 2	ISO 21070:2017/Amd 1:2022	Ships and marine technology — Marine environment protection — Management and handling of shipboard garbage — Amendment 1: Updates to classification of garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い(追補1)	MARPOL Annex Vの改正に合わせた追補。	2022.07	—
SC 2	ISO 21072-2:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers - Part 2: Light and medium viscosity oil	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油回収装置(オイルスキマー)の性能試験--第2部：軽粘度及び中粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの静水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 2020年6月8日を投票期限として実施された、規格名称を「・・・第2部：軽粘度及び中粘度の油」に小改訂するための投票が承認され、同月に改訂された。	2020.06	—
SC 2	ISO 21072-3:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers - Part 3: High Velocity Oil	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油回収装置(オイルスキマー)の性能試験－第3部：高粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、高粘度の油の回収性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 本件を審議するISO/TC8/SC2/WG3(油流出対応)にて、中国が小改訂を要望した。これに伴い、2020年8月21日を投票期限として実施されたFDIS投票が承認され、同年9月に改訂された。	2020.09	—

SC 2	ISO 21716-1:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 1: General requirements	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第1部：一般要件	船体付着生物の越境を防ぐために船舶に使用される防汚塗料の性能評価試験の共通的な要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC 2	ISO 21716-2:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 2: Barnacles	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第2部：フジツボ	フロースルーシステムを適用して、フジツボを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC 2	ISO 21716-3:2020	Ships and marine technology – Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 3: Mussels	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第3部：ムラサキガイ	フロースルーシステムを適用して、ムラサキガイを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC 2	ISO/AWI 21716-4	Ships and marine technology — Bioassay methods for screening anti-fouling paints — Part 4: Algae	船舶及び海洋技術－防汚塗料の生物検定スクリーニング手法－第4部：藻類	本規格案は、試験場所や季節に関係なく、制御された条件下での色の変化を評価することで、藻類を用いた防汚塗料の性能を評価する試験方法を取り纏めている。【日本主導】 2023年7月28日～10月20日に実施されたNP投票の結果、投票承認の定足数を満たし、ISO/TC 8/SC 2の新規作業項目として承認された。 2023年11月15日～16日に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 5ストックホルム会議では、プロジェクト・リーダーを務める日本から規格提案の主旨に関してプレゼンを行ったうえで、原案を審議したところ、大きな異議はなかった。編集上の修正を中心に全文にわたって審議した後、一部試験法の技術的内容(供試生物の活性を判定するための閾値の設定、統計解析手法)についても審議した。プロジェクト・リーダーは、会議後、合意された修正意見を反映した改訂原案をWGメンバーに照会することとなった。 2024年5月21日を期限とした、CD段階の省略を問う投票が行われた結果、特段の反対や意見は提出されなかった。 2024年6月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 5東京会議における審議の結果、本年8月末を目標として、DIS投票の手続きを進めることが合意された。	CD省略承認 2024.05.21	—
SC 2	ISO 21963:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Tank and piping system for facilitating oily water separation on fixed offshore marine structures	海洋環境に資する油水分離器を最適化するためのタンク及び配管の設計	船舶、海洋プラットフォーム及び海洋構造物の運用時に発生する汚水の油水分離を最適化するためのタンク、配管及び分離システムの設計について取り纏めたもの。	2020.09	—
SC 2	ISO 23048:2018	Ships and marine technology -- Verification method for portable power measurement using strain gauge	船舶及び海洋技術－ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法	燃料消費等を計測する、ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法について取り纏めたもの。 【補足】TC 8/SC 2ペイントン総会(2017年6月)において、本ISO規格はISO 20083-2及び-3と主旨が異なるため(※1)、シリーズではなく単独規格とするための提案があった。この提案に伴い、本規格を単独規格とするため、番号及び名称を変更する手続きが取られることとなった。 ISO 20083-1(現ISO 23048)は、校正手法を主眼としている一方、ISO 20083-2及び-3は、機器そのものについて規定している。	2018.07.04	—

SC 2	ISO/AWI 23656	Ships and marine technology — Marine environment protection — General requirements of data quality management for ship environmental index	船舶環境指標のためのデータ品質管理の一般要件	炭素排出削減のために IMO/MEPC (国際海事機関/海洋環境保護委員会) によって明確にされた、燃費実績格付け制度(CII)などの船舶の環境指標を計算するために必要な、船舶から収集されたデータの品質管理に関する一般要件を取り纏めたもの。【韓国主導】 2024年6月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 14会議の結果、適用範囲の認識の共有化が図られ、適用範囲の文言は現状で進めていくことが合意された。韓国は、内容を更新した原案を9月末に関連エキスパートに配信する予定。	WD作成中	-
SC 2	ISO 23765:2021	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Guidelines for a method of collecting ship's fuel oil consumption data	船舶及び海洋技術—船舶の燃料油消費量データの収集方法のためのガイドライン	MARPOL条約附属書VIの22A規則の要件に従って、総トン数5,000トン以上の船舶のデータを収集するためのガイドラインを規定する。航行距離、停泊していない時間、燃料油消費量の計測といったデータの収集のための実用的な手法がこの規格において明記される。	2021.12	-
SC 2	ISO/AWI 23765	Ships and marine technology — Marine environment protection — Specification for collecting data on ship's fuel oil consumption	船舶及び海洋技術—船舶の燃料油消費量データの収集方法のためのガイドライン	本年7月に開催されたIMO/MEPC 80においてDCS(データ・コレクション・システム)の報告事項を拡充するMARPOL条約附属書VIの改正案が承認されたことに伴い、日本を座長およびプロジェクト・リーダーとして、改訂作業を実施することが、2023年11月16日に開催されたISO/TC 8/SC 2ストックホルム総会で承認された【日本主導】。 2024年6月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 11会議の審議の結果、改正IMO DCSに関する海運界の対応、改正IMO DCSに関する船級協会の対応に関する調査を行い、原案を具体化していくことが合意された。	WD作成中	-
SC 2	ISO 24132:2024	Ships and marine technology — Design and testing of marine transfer arms for liquefied hydrogen	船舶及び海洋技術—液化水素用海洋トランスファーアームの設計と試験	液化水素運搬船を扱う沿岸液化水素ターミナルで使用される液化水素用海洋トランスファーアーム(ローディングアーム)に関する設計、安全のための最小限の要件、検査及び試験方法について取り纏めたもの。【日本主導】 2024年6月に制定された。	2024.06	-
SC 2	ISO 24146-1:2024	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 1: Management and handling of shipboard waste on inland vessels	船舶及び海洋技術—海洋環境保護—第1部:内陸航行船の船上で発生する廃棄物の管理と取り扱い	内陸航行船の船上で発生するゴミの管理の手順について取り纏めている(取り扱い、収集、分別、マーキング、処置及び貯蔵)。【オランダ主導】 2024年6月に制定された。	2024.06	-
SC 2	ISO/AWI 24146-2.2	Ships and marine technology — Shipboard waste on inland navigation vessels — Part 2: Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶および海洋技術—内陸航行船の船内廃棄物—第2部:港湾の廃棄物受入施設の設備及び管理	欧州域内の内陸航行船の船陸間インターフェース、および船から港の受入施設までのゴミの配送を取り纏めることを目的としている。【オランダ主導】 2024年6月に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 4会議において、字句の修正や用語の明確化が行われた。	WD作成中	-